



令和4年7月7日14時00分
資料配付 近畿地方整備局
紀南河川国道事務所

熊野川河口砂州の事前掘削により台風第4号の 熊野川増水時に砂州が大きく開口

熊野川の河口砂州が発達すると川から海への安全な洪水流下が遅れ、市街地の雨水が川に流れにくくなるため水災害リスクが高くなります。

そのため、紀南河川国道事務所では増水時により早く開口部が大きくなるよう、河口砂州の事前掘削工事を進めてきました。

7月4日から5日の降雨(台風第4号の通過)による熊野川からの増水により、開口(フラッシュ)幅を約220mに広げることができました。

<工事概要>

○熊野川の増水時に開口しやすいように掘削

掘削面積 $A = \text{約} 9,000\text{m}^2$ (最深掘削高はTP+2.0m(現況から約5m掘削))

掘削量 $V = \text{約} 16,000\text{m}^3$

施工期間 令和4年6月上旬から7月2日

<効果>

○中規模出水(あけぼの(外)水位観測所TP+2.50m)で開口(フラッシュ)を確認(約3,000 m^3/S)※注)

○早期開口により、熊野川の水位の急激な上昇が緩和される

(市街地の雨水が早く川に流れやすくなる)

○熊野川内の浚渫工事の出入りが容易となり、施工効率が向上

<今後の取組>

○今回の成果を踏まえ、掘削の時期や施工範囲のデータを更に蓄積し、継続性や効率性等の視点で管理手法を検討

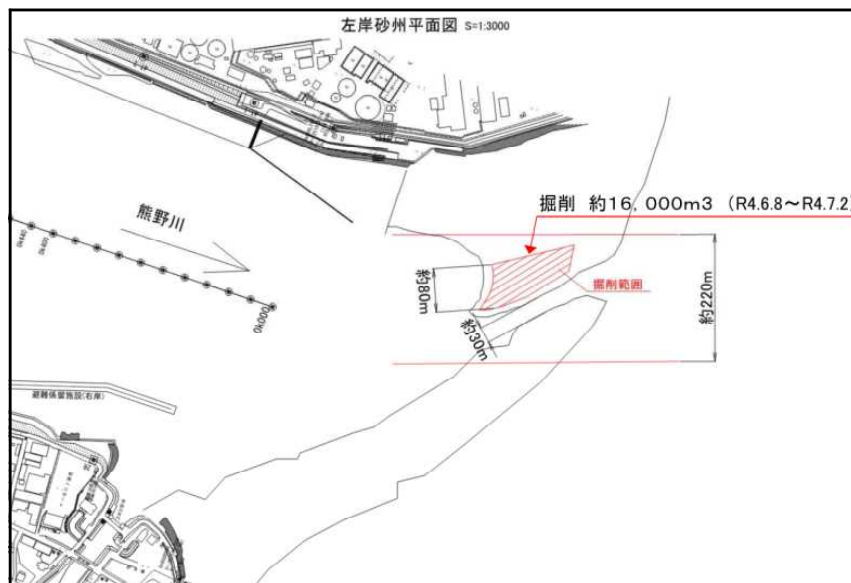
※注) あけぼの(外)水位観測所のHQ換算<速報値>

<取扱い>

<配布場所> 新宮中央記者クラブ、新宮記者クラブ、熊野市記者クラブ

<問合せ先>

近畿地方整備局	紀南河川国道事務所	副 所 長	オカザキ 岡崎	シンイチ 慎一
		工務第一課長	ツムラ 津村	トモアキ 智明
			TEL0739-22-4564	



別 図

5月上旬撮影 (掘削前)



7月1日撮影 (掘削施工中)



7月5日撮影 (増水後)

